京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲前金一ヶ月金貳十五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦 十二月十三日
發行編輯兼印刷人 山下榮藏
京城西署西小門通
發行所 京城新報社
電話六六三

韓國及東南滿州旅行談

陸軍步兵大佐小澤德平氏談

天滿洲の大森林の一斑を申しますれば、私等は初め羊魚頭より東崗にかゝり、更に東北方に進んで殆ど鴨綠江に平行して居る所の山脈間の暗き谷地を往つたのですが、之を通りぬけますと双岔頭に出ます、双岔頭から俄に西北に轉じますと、次第に山腹の小徑に辿りつきまして遂に老爺嶺に入込みます、その附近一帶になりますと、既に黃楡楡樹、羅漢柏等の濶葉樹林中に杉松、樅松等の針葉樹が混じまして、十二道溝から西北方に掛け、眼の屆く限りは豐富なる森林が遙かに連天の勢をなして居ります。禿山許りの單調なる鴨綠江岸とは全く別天地の觀があります、十一道溝からは針葉樹が減じて七道溝、四道江に掛けて廣地となりますが、再び阜慈溝より山間の谷地に入りますと又森林となります、この森林は四道江を北に去る一里弱の干勾門子と云ふ處から後双爐子溝に亘れる十二里間に連なりて居ります、併し牡丹嶺の森林になりますと、まだく以上の二森林よりもずつと盛んなものであります、清朝發祥地なる敖東城より南に行きますと、牧丹江流域の平野は次第くに縮まりまして、馬號で遂に山峽の中に入りますが、こゝが牧丹嶺大森林の端緒でして、私等が通過しましたのは六〇松樺甸子より柳樹河子までの五十淸里間で、ほんの一小部分でありますが、なかく盛んなものです、樺、楡、槐、茶樹、白楊、青楊白樺、黑樺、羅漢柏、楓等の濶葉樹で始まりまして、中間は五葉松、杉松、樅等の針葉ざ前の濶葉樹との混成林で、總りは豐富なる針葉樹林にて蓋きて居ります。鬱蒼として日光を漏しませぬ、唯青々として凝り滴つたところで牡丹江の水源をなしてると見ゆる許りです。更に濠江、大甸子附近の大森林を申しますれば、是亦老槐古松の蔚然たるもので、その延長は、官街の南一里程の地點から三岔子に出ます凡そ五百餘淸里間に亘りて居ります、前の牧丹嶺にても雪で困難を致しましたが、別けてこの森林にかゝりましてからの十二月七日の降雪の如きは最も困難を致しました、中にも三道老爺嶺、二道老爺嶺、頭道老爺嶺の三峻嶺の幽谷を通過しました時の如きは、其困難の度は言語道斷でした、それが爲、大牛溝より三岔子に至るは僅か七十淸里ですが、七日の午前八時三十分より翌八日の午前零時十五分まで十五時間三十五分を費やしました、こゝにその時撮りました寫眞もございますから後で御覽を願ひます(寫眞略す)

又森林の通過中にたきまして甚だ遺憾に感じたのは、數十丁畝に亘る地域の立派なる樹木が、立枯れ或は燒けて居るのがありました、如何にも無慘のやうに見へました、又森林中の案內者は常に村より村に出て、村續きに屆つて行きましたが、例の雪降り中の或日のことでした、其道が分らぬので何うしませうと云ひます、案內者が分らぬ位なら棒でも立てゝ倒れた方へ行かう、併し森の中でも明るい所がある、其明るい方へ向いて往つたら村に出るだらうと往つた所が果して村へ出ましたことがあります、一體森林の中は薄暗いが、其薄暗くない方が里に近いと云ふことが分りました、又森林中には此邊ならば犬が出る位に鹿が來ます、銃を以て擊ちましたが、何分彼が飛んで歩くから能く中りませんでした。

ステッセル裁判(三)

有史以來の大審問▲露國陸軍の內幕▲日露戰爭最後の悲劇▲旅順要塞開城事件

裁判長宣言して、「被告は各自の辯護人を裁判の前に表明せよ」と言へば、被告は順次其の辯護人の姓名を唱へたり。後、裁判長は當直將校をして證人を召喚せしむ。軈て遠方の室より此方へ近き來る足音、拍車の音勢ひ能く聞ゆるかと思ふ間に、早や一團の軍人は禮服を着用して現れぬ。クロパトキン將軍を先登として、ニキーチン中將、ベールイ、侍從武官セメノフ少將、ゴルバトフスキイ少將、エスセン海軍少將、ウキレン海軍少將、グリゴロウキチ海軍少將、シチエンスノウキチ海軍少將、ロシチンスキイ海軍少將、コステンコ少將、グリヤスノフ少將、グールコ大佐、ギユッペペトドクトル、レベヂンスキイ大佐、デミトリエーフスキイ、ミケウッゼ公、マツメンダロフ少將、海軍大尉ボドグールスキイ、マクシモフ、ウヰツゲフト二等大尉ソロモノフ、其の他多くの勳章に飾られたる旅順の勇壯なる防禦者數知れず。其の中には尙未だ繃帶せるもあり。是等の證人將校を見し時、吾人は彼等の名と繫がれる旅順防禦の當時を追想して轉た無量の感に打たれざるを得ざりき。想ふに是等生きて殘りし將校等の陰には、曾て骸を旅順の要塞に晒らし、骨を太平洋の海底に埋めし幾多勇士の見ねざる幽靈來り、心を生殘れる戰友等の言葉に託して旅順開城事件の眞相を語るべし。

證人等は長く數列の椅子を占めたり。其の中にはノージンも見ねたり。召喚せられたる證人は凡て百二十二人なりしが、内十二人は缺席したり。主要頭バラシヨフ、ドクトル、リビニン及びナデイン中將は病氣に依り、イルマン少將其他の將校は勤務の都合に依りて缺席したり。檢事は醫師ロザノフを除くの外證人の缺席を正當なるものと認めて裁判の進行を主張したり。蓋し缺席證人の口述證言は左程重要なるものに非ずして必要の場合に於ては彼等の筆記證言にても裁判に提供し得べければなり。被告の證人等も同じく裁判を延期するの必要なきを認めたれど、唯だ原告側よりの重なる證人の一人ナデイン中將の證言は殊に金州戰爭の結局に於けるフオーク將軍の過失を審問する際に甚だ重要の關係あることを述べて、病氣全快次第裁判に出頭すべくナデイン將軍に勸告すべきことを請願したり。辯護人等は更に此の裁判所に列席せるマルイギン中佐、ドクトル、アレクサンドロフ、コチエトフ、及びドウニン、スレプスイをも證人として召喚すること及び新聞紙「ノーヴイ、クライ」を此の事件に附加することを申出でたり。裁判は少時相談の後、審問を繼續すること、證人の缺席を正當と認むることを決定し、ナデインに全快次第裁判に出頭することを乞ひ、且辯護人として以上示されたる證人を審問することを決定したり。但し新聞「ノーヴイ、クライ」に關しては必要の場合に之を引證する事丈許可することに決したり。此の決議の布告せられたる後、ステッセルは更に以前高等裁判に依りて召喚を辭せられたるカラムイセフ一等大尉、ワーギン中佐及びロマノーフスキイ中佐を證人として審問することを請願したり。蓋しステッセルは是等の人物が只今裁判所に列席し居ることを知り得たればなり。裁判官は此の請願を容れてステッセルが指示したる人物を審問することを定めたり。是に於て裁判長は證人等に翌二十八日の午前十一時迄此の席に來るべきを言ひ渡せり。

斯くて午後二時より大型の紙にて九十六頁の長さに渡れる訴訟文の朗讀始まりしが、僅かに三四箇條を朗讀するうちに早や既定の時間午後七時となりたれば、本日は朗讀半にして閉會したり

肉の一片(續)

露人の記せし旅順交戰記の一節

狂ふが如くに鳴響く彈丸の、轟然と音する度に彼女は、彌々身を石炭の蔭に寄せ堅く眼目を閉ぢた、ト遽にその邊に、世に最も貴き人と胸に秘めし人の聲で

「オリガ、パウロフナさん、僕は貴女を探ねてゐたのですよ」愛嬌ある羊のやうな眼目は頓と彼女の目と行合ふ、宛ながら彼女は天使のやうに感じ、頑是なき小兒のやう、泣きながら起上つて男の頭を抱き、その逃れ去るを恐れるやうである

「歸りませう、ねゝ、歸りませう……」

二人は抱き擁ひながら、影遠く暗黑のうちへと去る、勢ひ猛烈なる砲聲の音も、彼等に取ては今は奇しき樂き音のやうである

此夜の戰爭の話錄の事は如何に之を記して宜いか、事實に餘る充分なる言語を發見せないのである

日本艦隊は時を定めては、閉塞船を放つた

一隻、二隻、三隻は、我艦隊の出路を防壓しやうと、灣口に至て船を沈沒せしめやうとして、遂に空しく目的の場所に迄至らず霰の如くに射切る彈丸のため轟沈された、

四隻目の船も自若として、眞晝の如くに反映する探海燈の下を潜りつゝ灣口指して疾驅し來る

死に忠實なる途を辿りつ

二隻は我が射し水雷の爆發に、粉碎されて空中に飛散した、殘船も等しく我が砲彈に轟沈され、海底の藻屑と化し、その忠勇無雙なる國の子を、肉の一片に怨みを止めて葬り去つた

更に五隻の艦船は現出し、旅順灣口を目掛け、白波を蹴立てゝ突進して來る

夜の暗黑の默々として鎖せる中を、探海燈の光に反映され、宛から海中より湧き出でたる巨大なる海魔のやう、途を迴り、戰史に比類なき赫々の武勳を現はさうと勇める姿

轟々の響、殷々たる砲聲に天は震動し、地軸裂けんばかりなり

敵が殆んど人間ならぬ暴動に、躊躇ひたる味方の兵士は人力の續かん限り、砲彈を發射して、狂妄なる勇者に死の贈物を捧げた

地獄の響は空中に暫時の絕ね入る暇もなく天地轟て一時に叫喚の聲を發せるかのやう

最後の敵の閉塞船も遂に其目的を達せずして滅亡して終つた、海の藻屑と化せんとせしうちの或者は、更に其剛毅なる膽力を打振ひ、悠々として短艇に乘じ歸路に就かんとした

然れども戰爭は憐愍を知らざるなり、小銃の音、カタカタ/\と云ふ機關砲の音も四面より聞ねた、是は即ち退去せんとする日本の勇者をして斯かる無智の勳功を再び爲さらしむ可く、味方から浴せかけた砲彈の音である

日本艦隊は其夜、十二隻の閉塞船を空しく失つだのである

翌朝、敵の勇敢なる兵士の、沈沒せる船板にでも其半死の生命を支へたる者やあると味方の兵士は其等勇者を收容しやうと出發けたが、一人として生存してゐた者は無かつた

敵は、海の深淵の海魔と化して終ふ事を俘虜となることよりも尊しとしたものである

韓國經營の第一義

鳥谷部銑太郎

世人動もすれば經濟上に於ける韓國の第一義を誤解するものゝ如し彼等の韓國經營を說くや多くは大仕掛の興業のみを夢想して眼前切要なる方策に注意するもの少なし凡そ大仕掛の興業は大資本を前提と爲すが故に彼等の理想とする韓國經營は畢竟資本的計畫に外ならず思ふに此の方針に依りて韓國を經營せむとせば恐らくは經營の眞目的を達すること甚だ難きものあらむ是れ余が一言以て大方の指教を請はざるべからざる所以なり、

余の見る所を以てすれば韓國經營の第一義は資本を移すに在らずして人口を移すに在り勿論韓國の經濟狀態を開發せむとせば資本の力に待たざるべからざるもの多しと雖も現時の日本は內地の興業資本にすら缺乏を告げ止むを得ずして不利益の條件を忍びても外債を募集せむとするの境遇に在り、たとひ資本に餘裕ありとするも其の投資すべき有利の事業の內地に綽々たるを見るに於て誰れか復た資力を韓國に分つの擧に出づるを喜ぶものあらむや、但し資本は恰も水の如く利益のある所必ず之れに向つて注流す是れ經濟上の自然作用なり故に韓國にして果して內地よりも利益多き事業あるに於ては政治的保險の完全なる限り我が資本家は敢て之れに投資するを躊躇せざるべきは言ふを待たず此般の事亦何ぞ他の勸誘に依りて始めて實現すべしと謂はむや、

然れども誤解するなかれ余は韓國に於ける資本的計畫を全く無用なりと極言するものに非ず唯だ其の先後する所を忘るゝなきを必要とするのみ即ち韓國經營の眼目は資本の輸入よりも人口の移植を急なりとするのみ蓋し毎年五六十萬の增加を示せる過剩人口の處分は、少數資本家の營利的事業を保護獎勵するに比し其の帝國の利害に關すること決して同日の談に非ざればなり近來日本人の米國及び加奈多に移住するもの陸續絕へず單にカリフオルニヤ州のみにても日本の移民約六万餘人を算し中には農業其他の各種生產に從事して相當の資產を作りたるもの少なからずといへば日本人は到る所に新天地を開拓するの能力あるものと謂ふべく復た必らずしも韓國經營に齷齪するに足らざるに似たり然れども米國及び加奈多に於ける日本移民の將來が果して有望且つ安全なるや是れ吾人の容易に斷言する能はざる所なり、

文苑

東京小景(六)　沒名學士

遊小金井

在府下北多摩郡小金井村。以櫻有名。並自大和、芳野。常州櫻川之地移植焉。連亘數里。花時實奇觀也。今秋風颯々。葉飛枝枯。又無一顧者。

老却春風既幾回。仙葩繚亂爲誰開。秋痕匝地只蟲語。殘月一瓢我獨來。

小說 紋のみだれ(四十八)

永井櫻園

濟糸の宅で、相對して密談しつゝあるは濟糸と勇五郎の兩個である、雨は綠を引く如く纏々として降つて居る。

『此麼に降つてる中を本當に相濟みませんのね、是非お目に懸つて話さなきやならない事が出來たもんですから、それでツイお呼出し爲たんですよ。』

衣紋を繕ひつゝ濟糸が云へば

『なアに御遠慮には及びませんよ、雨が降らうが雪が降らうが、御用があれば何時でも知らして下さい、夜の夜中でも驅け付けます、しかし能く降るぢやアありませんか、モウ今日で三日ですよ。』

と、悠々と後腰に手を廻して煙草入を取出した。

『眞箇能く降りますのね、雨は一日でも澤山だのに、三日も四日も降られては懲々爲ますよ。』

『しかし、如何に云つてもモー降止むでせう、私共では雨に降られると、全然商賣が無くなる上に、遊んでゝ飮むもんですから大變な損失です。』

『ほんに、商賣と云へば、店の方も次第に繁昌ださうで、何より結構ですね、折角太川の旦那が親切にして下すつたのが、旨く行かないと私までが相濟んやうな心が致ますのに、蔭ながら眞箇喜んで居ります。』

『有難うございます、お蔭でまあ追々都合が宜くなりますので、これも太川の旦那なり、お師匠のお庇だと云つて、父子の者が初中終喜んで居ります。』

云ひつゝ煙草に火を移せば、濟糸は自ら茶を入れて勸め、自分も喫し了つて後、やゝ容を改めて

『お呼出て申したのは、折入つて內談爲たい事があつて御足勞を願つたんですがね。』

云ひつゝ次の室の下婢に氣を配つて、俄に低聲になり

『外な事ではないが、縫ちやんをお嫁に欲しいと云ふ方があるのだが、唯た一人の娘だから何うかとは思つたけれど、何しろ先方が非常な財產家だから、思ひ切つてお遣りになりやア、彼の娘も僥倖、お前さんも一生氣樂に送れる事だから、左に右話だけは爲て見やうと思つてね……。』

「へい、彼の娘を嫁に貰ひたいと云ふ方が在ますんですか。」



と云つたきり、有繫の勇五郎も何と挨拶して宜いか、挨拶の爲やうに苦むで、暫は諾否の思案に沈むだのであつた。其樣子を見て取つた濟糸は

『突如に斯麼事言出して、嘸御迷惑でせうけれど、私も可厭と云へない方から賴まれたもんですからね。』

と、其顏を眺める。

『そりやモウ那麼娘を欲しいと云つて下さるのは、有難いのは、有難いですが、しかも行々は彼娘に死水を取つて貰ふ意で育て上げたんですから、嫁に遣ると云ふ事は今日の今まで思つても見なかッたんです、それに彼娘も貴女のお庇で、あの通り人氣の出た所で、廢業て了うと云ふのも殘念な心も爲ますが、しかし外ならん貴方が世話をして下さるんですから、私のためにも彼娘のためにも宜い方に相違ないですが、先方は何樣なさる方でせう。』

京城新報

東京よりの飛電

飛電あり曰く西園寺、阪谷、山縣の三相共に辭表を呈出せりと又次で來りし電報は曰く阪谷、山縣の二相は依願免官となりしと、之に仍て是を見れば内閣動搖の程度は隨分激しきものゝ如く次第に因て氷解するや知るべからず。世人も知れる如く阪谷博士は所謂閥族外の人にして博士が依て以て立つところの基礎は實業社會なり、されば現内閣成立後主として内閣の財政策を助け來りし者は澁澤男を筆頭とせる實業家なりしなり、今や是等の實業家が增税問題に關して現内閣に反對せんとするの氣勢を示せし阪谷博士たる者[illegible]に止まるを得んや此時に當て博士が藏相の印綬を擲ちたるは蓋し止を得ざるに出でたるものと云ふべし、山縣逓相に至りては素是所謂政友會内閣と事を共にすべき人に非ず彼が現内閣に加はりたるは[illegible]たるものにして決して責任を分擔すべく入りたるにはあらざるなり、氏が辭職の理由にはあらずして[illegible]は他日に於て明瞭となるべきものあるべし、[illegible]

[illegible]增税問題は國民に對し不人望の問題なり而も此不人望なる問題を掲げて議會に臨まんとは[illegible]若し西園寺内閣にして萬一の事あらんか[illegible]後繼者は[illegible]伊藤公は此際[illegible]と共に死命の一[illegible]べからず

東京電報

又々兩大臣の衝突

今日の閣議に於て坂谷藏相、山縣逓相間に又々衝突し議論に渉らんとせしも他の閣僚の和解に依り事なきを得たり

政界益不穩

伊藤統監、西園寺首相は共に今日參内し重大事件に就き奏上す事態何となく不穩なり

兩大臣愈免官

坂谷藏相、山縣逓相は遂に依願免官となり松田法相大藏大臣を兼任し原内相逓信大臣を兼任す(十四日發欄外再錄)

以上の二電は普通電報なりしにより既に報じたる三大臣の辭表呈出(至急電報)に遅れて着電したるものなり

各地電報

●同穩報 暴徒の來襲 金浦郡巡査駐在所を距る二里餘の地點に賊七十餘名集合し同駐在所を襲撃せんと揚言しつゝあり又本日午前二時賊約百名金[illegible]の噂あり直ちに巡査七名を派遣す

[illegible]暴徒來襲の件は事實相[illegible]被害不明(以上十四日[illegible])

雜報

御沙汰書の傳達

侍從武官高橋毅章氏は一昨十四日夜着京せり本日午前十時半會禰副統監以下に左の御沙汰書を傳達せり

天皇陛下 副統監以下一同永々の勤務滿足に思ふ向寒の折柄殊に寒氣の砌り折角自愛せられよ

高橋慰問使の慰問

駐韓軍隊慰問使として派韓したる高橋侍從武官は[illegible]着し本日は先づ軍司令部に到り[illegible]ける賊徒討伐の狀況は[illegible]觀察し來れとの御沙汰[illegible]る旨を告げ左の兩陛[illegible]に從事せる將校以下[illegible]御承知あらせらるゝ[illegible]賜せられ特に侍從武官[illegible]將校以下に酒肴料入院[illegible]以下永く勤務に勉勵[illegible]益々盡力せん事を望[illegible]以下各々の任勤苦勞[illegible]り長谷川大將以下一[illegible]の奉答をなせり[illegible]して特に侍從武官を差[illegible]沙汰を拜し臣等感激の[illegible]下一同を代表し謹で[illegible]酒肴料並に御菓子料[illegible]謝す

右宜しく御奉答を乞ふ

慰問使は同日軍司令部を問ひたる後統監府師團司令部憲兵隊本部其他在京城の各部隊を慰問し明日は衛戍病院斗毛浦騎兵隊及び龍山なる各部隊兵器廠等を視察し明後日は仁川に出で義州に到り更に忠州其他の討伐隊所在地を視察し再び京城に入りて釜山に出で海路海州元山に到り同地より陸路にて京城に歸り歸朝復命する豫定なりと云ふ

●天皇陛下より御下賜品 曾禰副統監に左の品々御下賜ありたり

一、葡萄酒二ダース 一、ブランデー一ダース 一、紙卷煙草五千本

副統監へ御贈品

一昨十四日韓宮廷より承寧府侍從を差遣せられ曾禰副統監へ左の品々を御贈與あらせられたり

太皇帝より 銀瓶壹對 別造紋緞二疋

皇帝より 銀瓶壹對 納紬 二疋

皇后より 蒔木緞二疋 黑羽扇二把

皇太子より 綉屏壹雙 納紬 二疋

慶善宮より 金盃壹個 別造紋緞二疋

●皇族手當 韓皇室にては今回各皇族に對し一人に付一ケ月千圓の手當を下賜せらるゝことゝなり若し一家二人あるときは一人は五百圓を給せらるべしと云ふ

密使送金隱匿 韓皇室より海牙に派遣したる密使に宛て送附すべき金二十萬圓を某韓人が受取り之を持て渡航すべしと稱し遂に隱匿し居れりとの説あり

●帝國艦隊の鎭海灣集中 有馬中將の率ふる第一艦隊は昨日呉に集合し十八日頃より廣島海面にて艦隊運動をなし伊集院中將の率ふる第二艦隊も昨日佐世保に集合し本日出發し鎭海灣に向ひ同灣に於て艦砲射撃及び艦隊演習を行ふ由なれば十八日後の同灣は近來未曾有の偉觀を呈すべしと同地よりの通信ありたり

●慰問使入城 駐韓軍隊慰問の爲め差遣せられたる高橋侍從武官は一昨日午後九時南大門着の列車にて着京せられ駐韓各將校の出迎を受け直ちに旅館たる巴城館に投せられたり

●宮内府の發電所新設 前皇居たりし慶雲宮内には宮内府の經營に成れる發電所ありて同宮内にある電燈を供給しつゝあるが此發電所は規模少さく此上の需要に應ずる能はざるを以て宮内府に於ては今回更に昌德宮内に發電所を新設し同宮及び安洞別宮に要する電燈を供給する筈にて目下設計中なりと云ふ

●騎兵隊所設費請求 軍部にては今回新設すべき騎兵隊費として九千四百四十三圓を度支部に向ひ支出方を請求したり右の内馬匹は本邦より購入する筈にて五千百七十圓を計上しありと云ふ

●宮内府の事務處理内規 從來韓國の諸官衙は各局課の主任者或は其官衙中の勢力を有するもの事務を專行せしため或る事件に關し許可或は認證をなす場合に出願者は當局官吏に賄賂して利權を獲得する等種々の弊害あり特に宮内府經理院の如きは其の弊最も甚しかりしは人の皆知れる處なるが宮内府に於ては此の弊を防ぐため諸般の事務の處理は總て委員制度とし局課員一同の同意を以て處理するの内規となし大臣次官と雖も勝手に事務を專行するを得ざるに至りたる由なれば從來の如き諸種の弊害の生ずる事なかるべし

●鑄錢所設立 亡命者中の兪吉濬、趙義淵の兩氏は龍山にある兵器廠の拂下を軍部に向ひ請願中なりしが今回許可されたるを以て同所に鑄鑛所を設立し製鐵事業を開くと云ふ

●鐵道管理局の刷新 鐵道管理局にては四月以後大刷新を行ふ筈にて現在の運輸事務を廢し營業事務所或は營業出張所の名義の下に專任技師を所長とし全線を京城及び平壤、草梁の三區に分ち各所長の下に車輛長、運輸長、經理長、保線長、工場長等を置く筈なりと

●邦人韓官吏淘汰 今回發表されたる韓國判任官中の本邦人の數は非常の多數を占め居れるが之が爲め豫算上多額の不足を生ずるを以て韓廷に於ては來る六月頃此等判任官の大淘汰を行ふ筈なりと

仁川税關第二期工事

税關前面第一期工事は近々落着するを以て同税關皁頭より仁川停車場に向ふ前面の第二期工事は本年夏頃より着手する筈なりといふ

●東洋協會入會 鐵道管理局長官大屋權平氏は今回東洋協會の事業を贊同し金五十圓を寄附して賛助會員に其他の諸氏は會員に前通信管理局高等官諸氏も此程入會せり

●韓人の電車値上反對 今回韓美電氣會社が電車乘車賃を値上したるに就ては日韓人共大反對なりしが韓人側にては昨日午後七時より京城商業會議所に於て各階級を通じて之れが反對演説會を催し非常の盛會なりしと云ふ

●上海の韓人團体 清國上海に流寓する韓人等は同志を糾合し大同保國會なる一團体を組織し夜學會を設け英語を教授し又寄宿舍を建築し就學者の便に供し毎週一回宛演説會を催すことゝせりと

協會解散と米價騰貴

仁川穀物協會解散の結果各組合員が從來同協會に買米穀一石に付十錢宛の積立金をなし來りたるものを廢し輸出商組合に十二錢宛を醵出し(從來は十錢)其二錢を以て協會殘務處理費に充つる事となりたるは昨紙詳報せし所なるが之れが爲め各商人は右十錢の内八錢の積立金を免れたる姿となりたるに依り昨日以來米穀相場は忽ち十錢方の騰貴を來すに至れりこは元より各商人が差引八錢の積立金を免れたるにより韓人より十錢方の高買をなすに至りたるものなるが何時もながら日本商人の近慾には呆れざるを得ず

鮮魚輸送運賃の引下

鐵道管理局にては去る一日以降京仁龍釜の四ヶ所に向け輸送すべき鮮魚の運賃を一噸一圓二十錢に引き下げられたるが其結果出荷幾分か良好なるも如何にせん仕向地の信用程度薄く仕切金等にも背信の行爲あり所謂踏み倒しに逢ふ事珍らしからず又た偶々氷藏して送りたるものに對し市場は天日に曝露し置き腐敗を招かしむる等の不親切を極むる爲め當局者の好意も此商業の發達を阻害する事少なからずされば釜山水產會社外二三の魚商は進んで京城等に出張店を設け前述の弊害を防止せんとの企あり若し其結果にして好良ならんか現在の如く韓海にて邦人の撈したる魚類を本土に送り北資を奪ひ又一般魚價を低むるが如きを避けて韓内地にのみ送出するに至るべく猶は魚商の利益上よりするも京城送り(弊害矯正後)には關門送りに比して收利多かるべき筈なりといふ

●學生團体と滊車賃 從來學生團体の韓國旅行は二割五分以内の滊車賃割引を爲せしが今回内地の教育家より交渉ありて五割引と爲すことゝなれりといふ

●藍浦郡の暴徒 約二百名の暴徒藍浦郡内に入るとの情報に接し鴻山警察分署巡査九名は之が討伐に向ひ彼等が同浦邑を距る一里なる臥龍里に在るを偵知し一月四日午後二時同地に潛行し彼等の不意を襲撃し戰鬪二時間の後突擊を試み退却せしむ賊は再び山上要害の地に止まり射撃を初めしを以て交戰又一時間遂に深田面方面に潰走せしむ賊の死傷詳かならず銃十一雜品數點を鹵獲し賊のため拘禁せられし良民一を解放す

●光州襲來の後報 全羅南道馬池面暴徒襲來の事は前報せしが光州警務署にては直に巡査部長以下十二名を急派追跡せしめしも今猶暴徒の行衛不明引續き搜索中既報行衛不明の邦人二名の内一名は死し一名は生存せるを發見す暴徒は當時被害者家屋を燒燬せり

●自衛團長銃殺さる 慶尚南道豐基郡下里面自衛團長金奎鳳は本月二日夜約十二名の暴徒に捕はれ同村内河邊に於て銃殺せられたるが同人は一進會員にして反對者の排斥せるにも拘らず卒先して自衛團組織に盡力し郡内略其の緒に就きしが其の機により南餘九面の團長以下の役員は辭任せんとし壯丁は見張其他の職に就くは肯せず同團組織に一頓挫を來せり暴徒は初め上里面自衛團事務所に襲來して團長を求めしも發見する能はず轉じて下面里に到り金奎鳳を殺害したるものにて翌三日午後五時頃同所南方高地に於て醴泉守備隊より擊退せられたり

●匪徒の歸順 一月九日江原道原州に於て匪徒に投したる元解隊兵五名其他の暴民一名計六名今回歸順を申告せるを以て取調べたるに悔悛の狀あり由つて洞長立會の上生業に就くべきことを誓約せしめ監視に付したり

●間島の戸口數 統監府間島出張所長齋藤中佐の報告に依れば同島の社數は五十にして韓人村五百二十九村、清人村二百九村あり戸數は韓人一万五千三百五十六戸、清人三千七十四戸、人口は韓人七萬二千七十六人内男三萬九千五百二十三人、女三萬二千五百五十三人、清人二萬千九百八十三人内男一萬三千六百二十三人、女八千三百六十人なりと云ふ

●憲兵隊長の統監府訪問 明石憲兵隊長は昨日統監府を訪問されたり

●木内部次官の歸任期 木内内部次官は本月十三日東京を發し歸任の筈なりしが都合により十六日に延期したる由なれば十八日夜南大門に歸着すべし

●大屋權平氏の東上 鐵道管理局長大屋權平氏は本日南大門發列車にて東上の途に上らるゝ由

●法典調査委員任命 法部次官倉富勇三郎氏は法典調査局委員長を同書記官松寺竹雄、安杜太郎、刑事局長金洛憲、内閣法制局長兪星濬の諸氏は同委員を命ぜられたり

●富田民長歸任期 富田民長は今明日中に歸仁の豫定なるも未だ何等の通知なきに依り或は四五日遲延すべしといふ

●第一銀行群山出張主任更迭 第一銀行群山出張所主任盛川武次氏は大邱へ轉任し其後任には鎭南浦主任たりし麻生蓬氏命ぜられ既に着任したりと云ふ

●十四日參内者 總計四十六人内婦人八人重なるは趙法相閔宮相署理、德壽宮總計七十二人内婦人二十七人承寧府總管趙民熙等なり

●和船の遭難 山口縣人野々宮圓松外七名は所有船幸運丸(二十噸)及び榮吉丸に分乘し客年十一月廿六日清國大連灣を出帆し日本に向け航行中十二月十九日黃海道龍淵面沖合に於て暴風に遭ひ幸運丸は沈沒し榮吉丸は陸上に打揚げられ乘組員一名海中に轉落して行衛不明となり他は辛ふじて同面大機里に上陸し部落の韓民の救助を求めたるも當時其附近は暴徒出沒し韓人にて日本人に同情を寄する時は暴徒に迫害せらるゝを恐れて救助するものなく遭難者等は其の旨金浦警察分派所に訴へ出でたるを以て現場に巡檢を派し救護に從事せしめたりと云ふ沈沒船積載貨物中に汽鑵二個ありて損害總額は二萬二千圓なり

●仁川米穀の出廻り 昨年末以來地方暴徒の爲め且諸河川結氷の爲め出廻漸かりし米穀は昨今に至り漸々出廻りを見るに至りたりといふ

●朝鮮日々新聞の解停 保安規則第九條の二に依り仁川理事官より發行停止を命ぜられたる同新聞は昨日解停の命に接したり尚ほ同新聞は明十七日より從前の通り發行すると云ふ

外國貿易旬報

明治四十一年一月上旬分 關税局調査

港名	輸出品價	輸入品價	合計
仁川	一〇八、四九三	四〇三、九〇二	五一二、四四四
釜山	一六九、七四四	一二三、〇九三	二九二、八三六
元山	一〇四、九三六	五四、六八六	一五九、六二二
鎭南浦	二、六八〇	三二、一六六	三四、八四六
京城	三六八	九一、〇二一	九一、三八九
群山	四八、一二六	二〇、四四六	六八、五七二
木浦	六四、一四八	一七、五四〇	八一、六八八
馬山	一九	四、二九九	四、三一八
城津	一、二五六	六、六二二	七、八七八
新義州	八、五三三	五、八七八	一四、四一一
計	四五七、八〇七	七五九、二三四	一、二一七、〇四一

輸出重要品表

品名	價額	品名	價額
米	一五六、三三〇	鮮乾及鹽魚	一四、二三七
大豆及小豆	二〇四、〇三七	牛	一八、九三七

輸入重要品表

品名	價額	品名	價額
食鹽	一九五	煙草(葉卷を除く)	五二、〇四一
清酒	一五、八〇〇	石油	二四、九三〇
打綿	二、八八一	マッチ	二、三三二
生金巾及シーチング	一八〇、一九五	砂糖及精糖	八、九三三
石炭	一九、一〇七	日本木綿	三五、〇〇六
綿織糸	五五、八〇五		

大邱通信

錦山生

▲當第一銀行出張所武川主任新任に就き同銀行にては去る十一、十二の兩日に亘り京城館に於て其の披露會を開きしが京城より市原總支配人出席せられ非常の盛會を呈したり

▲又市原一銀總支配人の來邱を機とし氏の經濟上に關する談話を聞かんとの議起り十二日午後四時半より氏の招待會をやまと樓上に開會一同食卓に就くや川上常次郎氏發起人を代表し同氏招待の辭を述べ尚は大邱の變遷と現下の位置とを略敍して韓國財政の關鍵を握れる氏の經濟的意見を聞かんとを希望せしに市原氏は直に起つて約三十分に亘る演説を爲し了るや恒吉少將の首唱にて一同起立杯を擧げて氏の健康を祝し散會せしは午後六時半なりき

▲當地に於て政社的團体として知られたる公民會は來る十七日午後より錦座に於て政談演説會を催ふし大に同會の主義抱負を一般に宣明する筈なるが辨士は三輪、加藤、青木、黒川、井上の五氏なり

▲大邱日々新聞にては目下民團議員補欠選擧豫選投票を爲しつゝあるが去る十日正午迄の〆切報告に依れば三ケ尻忠吾(十九點)上田謙助(十五點)林甚七(十三點)巽弓忠(十三點)麻野濟市(十三點)河井明雄(十三點)沖原房一(十一點)大野峰次郎(八點)加藤一郎(八點)黒川圓次(五點)福地義作(五點)池田六郎(五點)松本誠一(四點)西澤智(四點)等なり

▲次官の動靜 中小路逓信次官も辭表を呈出せり水町大藏次官は更任すべし(十五日着)

●新年宴會開催 來る十八日(土曜日)午後六時より統監府食堂に於て府員及び家族の爲め新年宴會を催さるゝ由付左記の事項に付予め了知の上多數出席ありたしと同府員へ通知を發したりと云ふ

一、娛樂曲目 一、軍樂隊奏樂二、落語三、筑前琵琶四、講談五、福引

一、出席者には茶菓を供す二、會場には椅子の設備[illegible]三、通用には裏門の方便利なり四、御服裝は凡て御ふだん着の儘を望む、五、出席者は當日會費として家族携帶者は金五十錢單獨出席者は金二十錢出金の事

■■電報

▲次官の動靜 中小路遞信次官は辭表を呈出せり水町大藏次官は■任すべし（十五日發）

●新年娛樂會開催 來る十八日（土曜日）午後六時より統監府食堂に於て府員及び家族の新年娛樂會を催さるゝに付左記の事項了知の上多數出席ありたしと同府員へ通知を發したりと云ふ

一、娛樂曲目 一、軍樂隊奏樂二、落語三、筑前琵琶四、講談五、福引 一、出席者には茶菓を供す二、會場には椅子の設備に付履物は可成靴又は草履を望む三、通用には裏門の方便利なり四、御服裝は凡て御ふだん着の儘を望む、五、出席者は當日會費として家族携帶者は金五十錢單獨出席者は金二十錢出金の事

信夫淳平君

月旦三十行 予の見たる仁川紳士 隱法士

何處に行つても理窟〳〵と奉らるゝので社會には只煩い人であると思ふて君の値打を知つて居るものは尠いらしい、言ふ迄もなく君は高商の俊才として當時學生社會を唸らしたものだそうだ、嚴父恕軒先生の家庭に育つた丈に性格が至つて頑固でサバケず且つ頭が緻密である、元來嚴格で緻密な人は狹量なものであるが君も矢張り此部を脱れ得ぬらしい、某實業家が君を評して君に嚴父の度量を與へたならば今日決して理事官をして居る人でない、といつて居る或はそうであらう、が然し世の中はそうは甘く行かぬものだ、又君は外交家丈あつて八面玲瓏仲々如才がない、此點に於ては在仁紳士中第一であらう、君は元外務省に居り京城に來て滿洲に行つた事もある、斯の如く仲々役所の苦勞をした君であるからどても仁川土着の紳士方とは比べものにならぬ、然し予は一歩を進めて忌憚なく言へば餘りに如才なさ過ぎて果斷に乏しい所がありはしまいかと思ふ、聞けば君は元來餘り交際を好まぬ方であつたそうだが當地に來られてからはスッカリ變つたといふ事である、兎に角予は君を以て好個の外交家、八方美人のモデルといふて置かう。 安許多謝

夜の京城

晝の京城は見飽きたり夜の京城は如何更らに徹を穿ち秘密の扉を開かば面白き新聞材料もあらんと思ひ立つたが十五日の午前二時半即ち同樓の若武者一人を誘ひ毛布を天窓より被つて本社を立ち出で南大門に向ふ夜色寂寞人車の往來するなく飲食店が僅かに燈火を漏らして客を待つの外眼を遮るものなく耳に入るものは犬の遠吠のみにして靜肅なること神境の如く是れが日中となれば肩摩轂擊の巷區と變ずるかと思へば不思議の感なき能はず

寒風は身に泌み四肢入膚冱凍せんばかりにて歩めど往けど何一つ耳目に觸るゝものなく去りとて此のまゝ歸らんも本意なしと道を迂回して相生町より米倉町に出で彼方此方の裏通りを經廻り旭町に出づれば

▲東海旅館 の軒燈を揭げ表戸に『何時でも起きます』と大書せるあり果して何時でも起きるか否か一番試み呉れんとどん〳〵戸を叩けば直ちに應と答へて將さに起き出でんとするより起るには及ばじと告げて逃げ去り進んで九州旅館の前に出ると物の焦げる香の鼻を穿つばかりなるより只事ならじと其の邊りの戶々軒々を呼び覺まし尙ほも臭氣を便りに探し廻ると果せる哉裏手に當れる

▲韓人家屋 の戶の隙間より煙の吹き出るより戶も碎けよと打ち叩けば中より三人の韓人が飛び出だし狼狽騷ぐを押し留め燃ね上りつゝある蒲團を外に引き出ださせたり此の時近隣の人々も馳け集り警察署よりも此の由聞き傳へて二名の巡査來り取調べて見ると此の家主は張弘遠といふ者なるが今十分時間も遲かりせば彼等家族三人は窒息して家屋と共に焦げ失せ近隣をも迷惑せしむべかりしならん

時已に四時に垂んとし雞鳴遠邇に聞ゆ今夜の視行は計らずも効果を示したるよりこゝに歩を留め蒼穹にきらつく星の光りを辿つて本社に歸れば寒威身に逼り寐られぬまゝ此の記を爲る（めがね）

●僞造貨幣を發見す 馬山浦居留雜貨商坂本常三郎方に於て韓人が五錢白銅僞造貨二枚を行使せんとするを發見しまた木浦居留商人大井茂太郎方附溜金中より僞造二十錢銀貨一枚を發見したる旨其筋に報告あり

●誤て韓人を射殺す 一月五日林川郡谷面德林里日本人材木場在留山口縣豐浦郡彥島村福浦■田德藏（二十）は山見廻りの途次同所德林寺附近の建物に居住せる朱青雲（四十）は兼て懇意なる間柄なるにより同人の呼ぶに應じて其の宅に立寄り己れの携帶せる村田連發銃に裝彈なきものと信じ戯れに青雲を的に引金を引きたるに轟然發射して彈丸は同人右顎部に命中し即死せしめたる急報同地駐在所に達し同日本人は取調の結果過失殺人罪として訴追されたり

種取（新作狂言）

罷り出でたるは早耳菊之助と呼ばるゝ怠惰者にて候此の頃仁川の水道局員と民團吏員との間に確執とかいへることがこれある由、人々噂いたすによつて縡の次第を尋ねて見やうと存ずる太郎冠者は居るか（太）れん前に候（早）其方呼び出いたは餘の儀でない此の頃人々の噂する確執とかいへること如何なる次第か早く尋ねて參れ（太）畏てまつてござる……（早）頼うだ人はござるか只今罷り歸つて候（早）太郎冠者であるか是れは念なう早かつた確執の次第分明いたしたるか（太）さればにて候縡の起りは舊臘の二十八日水道局員が二十五人民團吏員が二十五人何れも入阪樓にて忘年會を開かれ双方ども負けず劣らず三味や太鼓で囃し立て飲めや謠へと騷いだ揚句に民團吏員の一人が酒興に乘して水道局員の宴席にあばれ込みたるより爰に一場の紛議を生じ兩席擧つて五十人入り亂れての大騷動天窓を蹴られて泣くもあれば鼻血を流して笑ふもあり宴席變じて修羅の巷となりしも有繫に仲居の仲裁にて其の場は一先づ治まりしも納まらぬは双方の胸の内何かで此の復讐を取つてやらんと今に睨み合ひの姿なりとのことにて候（早）これは至極面白い新聞種じや新聞屋に賣うと存ずる（太）夫れは見合せ下されい一杯買うほどに新聞に出して呉れなどの頼みにて候（早）馬鹿なこと申すな（太）夫れでも拙者が頼まれて候是非にお見合せ下されい（早）馬鹿なこと申すなやるまいぞ〳〵

●振られたみつ（つゞき） 斯くておみつは首尾よく土木組員糸野の愛妻となり濟まし舟板塀に見越しの松と迄は行かざれど下宿屋の四疊半に何苦勞なき月日を送る身となり今日は芝居明日は物見遊山と樂しく面白く暮し居りしが月に叢雲花に風半歲許り過ぐる中に旦那の勤むる某土木組は或る工事の行き違ひより多大の失敗を來したれば終に解散の已むなきに至りたるが夫れと同時に男も土地に居堪まらず爰に心辛くもおみつと飽かぬ別を惜み少なからぬ金をおみつに與へて男は其の鄕里なる北海道へと歸りにき、サテ取り殘されしおみつは旦那の圖らざる災難に加へて折角情をゆるせし身のゆへりなくも離別の嘆きに逢ひて一時は何事も手に附かず一人くよ〳〵ともの下宿屋の一室に閉ぢ籠りては浮世の儚なさを喞ち居りしが何時迄去りし男を戀ひ慕ひとて詮方なく尙々懷中の金も剩す處僅かに許りとなりしかば今の中に分別せんものをと或る日下の主婦に身の振り方を相談せしに主婦は膝を叩いて點き、ナニお前さん程の縹緻を持つて居れば何處に行つたとて難義するやうな事はなく何も一旦操を汚せし身のどう轉んだつて大丈夫です……ナニ此先きの事に就ては一寸も心配は無用萬事わたしの胸三寸と許りに輕々と引受け呉れしかばおみつも痛く打喜び万事身の振方を此の主婦に任かしにき、斯くて五六日を經るやおみつは約束の通り主婦の周旋にて近所の春の家とかいふ小料理屋の酌婦に住み込みしに根が遊皮の少しく剝け居る上に年に似合ずに客の取り廻しの上手なる所より忽ち土地の評判女となりたるが持つて生れし浮氣の病は日を經る毎に前の男の事を打忘れ爰に又々或る商店の優さ男と深き關係を結ぶに至りたり（つゞく）

●毆られた上に詫 我同胞にもてんな意氣地のない者が居るとは情ない次第なり旭町三丁目の錻力職新村新次郎は昨日韓人の密柑賣が來りしより十個六錢といへるを五錢に値切り未だ其の承諾を得ざるに密柑籠の中に手を入れてこれを取らんと韓人が遮る手を拂ひて強いて取らんとせしより韓人は新次郎を突き倒し新次郎も爰に至つて憤然と已れ何を晒すのだと起き上りて韓人の顏を搔きむしり韓人も負けず劣らず新次郎を叩き伏せたるより新次郎は無念の切齒をなして向はも執つて蒐らんとせし其の手を韓人は堅く握つて此の顏の傷を何して呉れるサア警察署へ行かうと新次郎は散々に毆られた上に警察署へ連れ行かれ大目玉を喰はせられた上に藥代として二十錢を韓人に支拂ひ韓人に詫をして濟まして貰つたとはよい面の皮なりかし

●又も墳墓を掘る 韓人の墳墓には高價なる高麗燒の壺が埋てあるといふので是れを發掘して處刑せられしもの既に幾人なるかを知らざるに尙は懲りずまに佐賀縣生れ芦塚與吉（四十）といふは去る十日近郊へ鳥獵に行くとて同居人佐野秀太郎（三十）を誘ひ出し開城の東方約二里餘の八字洞の原野に連れ行き秀太郎に見張番をなさしめ己れは金棒にて墳墓を發掘し高麗燒の壺外十四點を得て首尾こそよけれと打ち喜び南大門まで歸り來りし所に巡査が佇み居りて其の携ふる品は何なりやと訊問しこれを實見して盜品なることを知り直ちに巡査派出所へ引き立てられ昨日當地警察署へ護送せられたり

●盜難三ツ 當地永樂町一丁目の松尾由太郎は十四日午前一時より八時迄の間に於て女物吾妻コート三枚と男用筒袖四枚とシャツ九枚と西洋手拭十枚と手袋二組とを盜難に罹り▲明治町三丁目の小川龜太郎は十三日の夜隣家の空屋溫突に乾し置きたるメリヤスシャツを盜まれ▲旭町一丁目の菓子商杉村寶造方にては十日より十三日迄の間に於て衣類數點を剽竊せられしといふ

●東京角力番附 東京相撲の一月場所は一昨日より開場したるが今常陸山より本社長に送り來れる新番附を左に揭ぐ

東の方

位	名
張出大關	荒谷
張出横綱	太砲
横綱	梅ヶ谷
大關	國見山
關脇	太刀山
小結	玉椿
前頭	綠島
同	若左倉
同	海山
同	鶴渡
同	千年川
同	谷の音
同	伊勢の濱
同	鬼龍山
同	有村
同	有明
同	大崎
同	五所車
同	大戶崎
同	寒日山
同	藤日嶽

幕下

位	名
張出前頭	荒鬼
前頭	小常陸
同	上ヶ潮
同	鏡川
同	大綠
同	利根川
同	舞鶴
同	四賀の峯
同	染森
同	西の鄕
同	太刀勇

西の方

位	名
横綱	常陸山
大關	駒ヶ嶽
關脇	錦洋
小結	尼ヶ崎
前頭	浪の音
同	朝嵐
同	大川
同	兩國
同	加增山
同	稻瀨川
同	小柳
同	稻川
同	大湊
同	甲
同	朝汐
同	男島
同	紫雲龍
同	碇潟
同	谷の川

幕下

位	名
張出前頭	古河の里
前頭	八島山
同	神・崎
同	柏山
同	小左倉
同	荒駒
同	近江富士
同	平の海
同	荒見崎
同	朝日龍
同	駒勇

●出火 昨夕南大門外食品組合の倉庫火災に罹りたり

●歌舞伎座替狂言 同座本日の藝題は「不如歸」全七幕にして役割は左の通り 千々岩中尉（岩尾）醫師竹田（池田）片岡中將（千島）中將夫人（若宮）母堂慶子（橘）乳母いく（高木）日高利四郎（上野）執事村上（宇野）加藤夫人（淺井）女中お定（平井）山木兵三（大町）川島武夫（小喜多村）川島浪子（東）醫學士田村（正月）田島家令（千代田）難波副官（瀨川）山田大尉（鈴木）

内外書籍新聞雜誌
和洋雜貨日用品
文房具學校用品

大阪朝日新聞 一ヶ月 四十五錢
同 毎日新聞 一ヶ月 四十五錢

京城本町三丁目
太平田商店
(電話百十五番)

本店 東京市日本橋區兜町
内地支店及出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城
淸國出張所 安東縣

株式會社 第一銀行韓國總支店

電話番號 營業部 一一番 / 當直用 同 / 營業部 三一二番 / 國庫部 六一番 / 用度係 六二番 / 分拆所 六二番

總支配人 市原盛宏
副支配人 竹山太郎
國庫部長 三島純平
副支配人 …
調査部長 …
副支配人 …
營業部長 市村雄次

材木、竹類、礪灰
座敷廻り諸材料特に注意取揃あり
右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

(下) 小森材木部
京城旭町一丁目
電話七四四番
本宅四〇五番

當籤謝告

壹等九八八 一白米(五斗入)拾俵 南大門通二丁目 宮本七五郎
貳等一八七一 一本間美術屛風壹本 南大門外栗田洞 畠山平吉
三等三八五 一モヘル膝掛壹枚 森一

右之通り四ヶ所商店歳暮賣出し福引に當籤し景品正に受領同店の確實なることを爰に證明旁謝告仕候也

福引抽籤御披露

等級	番號
壹等	九八八
貳等	一八七一
參等	三八五
四等	一六六八
五等	一四二
六等	七一一
七等	一一〇二
八等	一一〇六
九等	四八
拾等	二〇一
五十等	六三〇
百等	一一七八

右謹告仕候

京城本町二丁目
四ヶ所商店
電話三三二番

龜屋
大福引抽籤御披露

景品等級	福引券番號
一等	二二二二
二等	四〇八〇
三等	三六八七
四等	一〇八八
五等	四七〇二
六等	一三二
七等	三六三五
八等	三七四六
九等	二八二九
十等	一二三四

景品等級	福引券番號
廿七等	一〇三三
五十等	二〇四三
百等	三一四四
二百等	七三五
三百等	四一四四
四百等	一一三九
五百等	二三五四
参千等	二〇〇
五千等	二八一五

以下は店頭に掲示仕居候御序之節御覽被下度奉願候 敬白

京城本町三丁目
進辰馬
(電話二十七番)

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
資本金三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山、仁川、平壤、鎭南浦、安東縣

株式會社 第五十八銀行京城支店
(電話五八番)

爲替取組先
内地	二十七ヶ所
東海道	十三ヶ所
山陽道	二十五ヶ所
南海道	七十三ヶ所
北陸道	二十三ヶ所
山陰道	五ヶ所
西海道	二ヶ所
韓國	二十八ヶ所
淸國	十三ヶ所
臺灣	九ヶ所
北海道	一ヶ所

一各種石炭大販賣
大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候
三池粉炭
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候
當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物産合名會社
京城出張所 (電話二十六番)
仁川出張所 (電話六十三番)

出寫專務
審美館
寫眞師 高原華泉
寫眞師 奥田星華
明治町二丁目衛戍病院前

▲各科治療
▲入院隨意
軍人、新聞社職工、學生、諸君は藥價半減可仕候
無代施療券配布方民役所へ托し置き候間該券持參の御方に限り無代治療に可應候
京城長谷川町二丁目
蘇生病院

見眞大師報恩講
十三日夜より十六日日中まで
長谷川町
本派本願寺

木炭着荷
京城南大門通三丁目
英兄弟商會
電話九四八番

諸官衙御用印刻師
京城明治町二丁目
齊藤亭太郎

㊟福島組
(電話五三五番)
同 波戸塲出張所
(電話五四二番)

▲貨物本船積卸
▲龍山行 其他近海運送
▲右の外艀に關する一般の事務
仁川港仲町一丁目

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

株式會社 十八銀行 京城支店
京城南大門通(電話四二〇)

本店 長崎市築町
支店 出張所 京城、仁川、木浦、群山、龍山、釜山、元山、羅州
日本 大阪、佐世保、五島、熊本、嚴原、壹岐

韓國其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)
長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

西洋御料理宴會
日本人倶樂部
京城南山町三丁目(電話一二三番)

會席御料理
並に
仕出し
京城西小門内
福來亭

●百貨運搬
●取扱懇切
●配達迅速
追而仁川に於て通關を要する貨物は御申越次第最も叮嚀迅速に取扱可申候
仁川驛上
小宮山通關運送店
電話七一六番
京城南大門外
同支店

齒科全般の治療
米國最新式義齒
米國齒科醫學博士 女醫
京城本町六丁目(鐵そば横町)
中村安子

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 一月二十五日後三時出
●釜山門司神戸大阪行 淡路丸 一月十四日正午十二時
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 浦汐丸 一月廿二日後三時出
●大連、大沽行 第一オハヨ號 一月 日後三時出
●大連行 酒田丸 一月 日後一時出
●大連行 高砂丸 一月廿四日後一時出 營口丸 二月四日後一時出 新潟丸 二月九日後一時出
●大連、芝罘、秦皇島行 山東丸 一月十四日前九時出
●鎭南浦安東縣行 第一オ…丸 一月 日後三時出
●釜山出帆、元山行 弘前丸 一月二十九日

御注意 …

京城南大門通
巴商店
電話三〇六番

仁川海岸通
郡回漕會
電話三九番
貨物及船客取扱店

日本郵船株式會社
仁川出帆廣告
電話十番

明治法律學校出身
増本好三郎事務所
京城本町一丁目一番地

誠實と熱心を以て訴訟登記其他諸般の代書依頼に應ず

味噌醤油製造
乾物荒物罐詰
銘茶食料雜貨
京城本町五丁目
漬物問屋 大上商店
(電話二五一番)

京城大平町二丁目 新あづま
京城西小門内 日の出亭
京城大平町 れた福亭
京城西小門内 南方亭
同支店
京城長谷川町二丁目 永樂亭支店
京城大平町一丁目 永樂亭本店
京城大平町一丁目 九州樓

手がるた料理店案内